

# 輸入小麦の政府売渡価格について

## (価格公表添付資料)

平成 2 6 年 2 月

**農林水産省**

# 目次

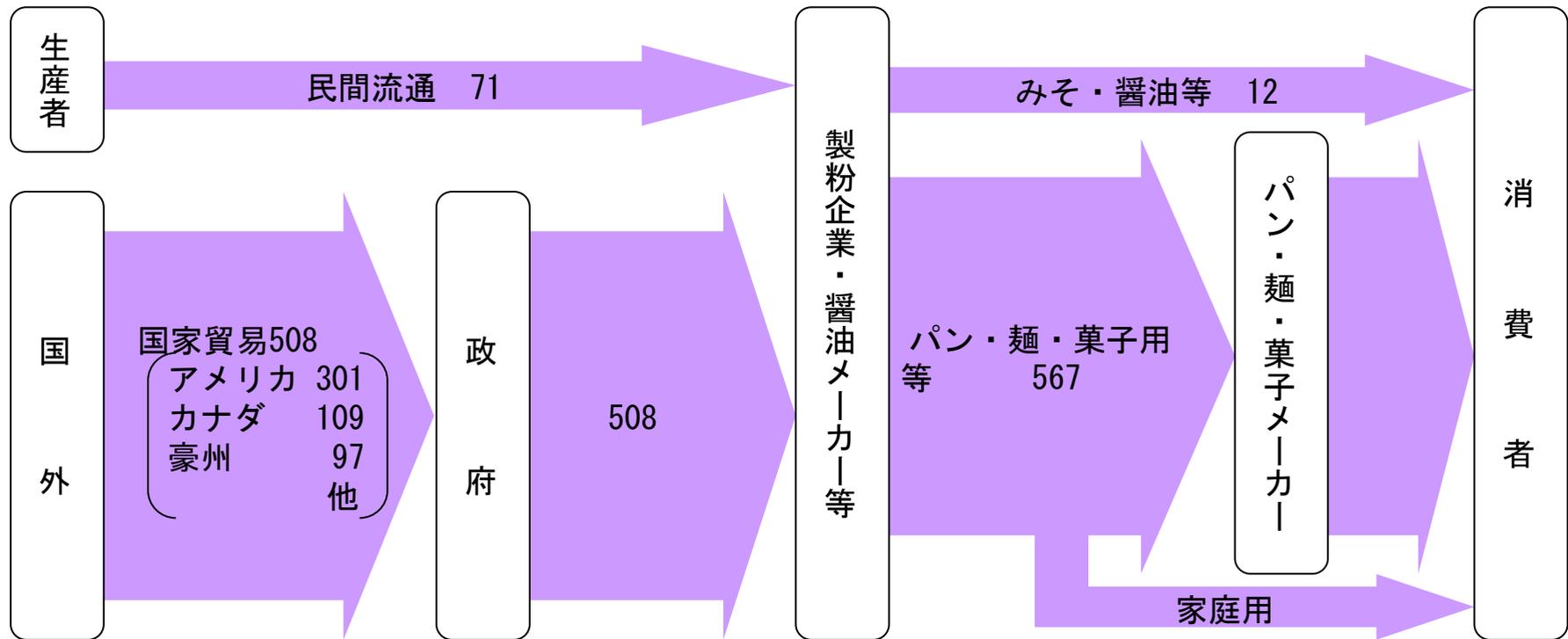
・ 小麦の流通の概要	1
・ 小麦の種類と用途	2
・ 現行の輸入小麦の売渡制度	3
・ 穀物の国際価格（シカゴ相場）の推移（平成18年4月～26年2月）	4
・ 小麦の日本向け輸出価格の推移	5
・ 北米における鉄道輸送の状況	6
・ 海上運賃の動向	7
・ 為替の動向	8
・ 輸入小麦の政府売渡価格の推移	9
・ （参考）物価・家計への影響	10
・ （参考）輸入小麦及び小麦製品の安定供給確保のための取組	11

# 小麦の流通の概要

- 小麦は需要量の約9割を外国から輸入。国内産小麦は民間流通により取引されており、外国産小麦は政府が国家貿易により一元的に輸入し、需要者に売り渡しているところ。
- また、米とは異なり、最終的にパンや麺として消費するため、各種の加工工程を経て流通。
- 小麦は、主に製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・麺・菓子等を製造。

## 小麦の流通の現状（食糧用）

（単位：万トン）



注：流通量は過去5年（H20～H24）の平均数量である。

# 小麦の種類と用途

- 原料として使用される小麦の種類は、小麦粉の種類・用途に応じて異なっているところ。
- 小麦粉の種類は、たんぱく質の量によって、強力粉（パン用）、準強力粉（中華麺用）、中力粉（うどん用）、薄力粉（菓子用）に分類。

外国産小麦の銘柄	カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング (1CW)	アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング (DNS)	アメリカ産ハード・レッド・ウィンター (HRW)	オーストラリア産スタンダード・ホワイト (ASW)	アメリカ産ウェスタン・ホワイト (WW)
輸入数量	87万トン	138万トン	85万トン	86万トン	78万トン

小麦粉の種類	強力粉	準強力粉	中力粉	薄力粉
主な用途	食パン 	中華麺 ギョウザの皮 	うどん、即席麺 ビスケット、和菓子 	カステラ、ケーキ 和菓子、天ぷら粉 ビスケット 
たんぱく質の含有量	11.5~13.0%	10.5~12.5%	7.5~10.5%	6.5~9.0%

国内産小麦の種類	パン用品種	中華麺用品種	日本麺用品種
供給量 (24年産)	6.8万トン (8.4%)	0.7万トン (0.9%)	73.8万トン (90.7%)
81.3万トン	北海道ゆめちから (0.4万トン)	福岡ちくしW2号【ラー麦】 (0.3万トン)	香川さぬきの夢 (0.4万トン)

注：輸入数量は、過去5年（H20～H24年度）の平均数量である。

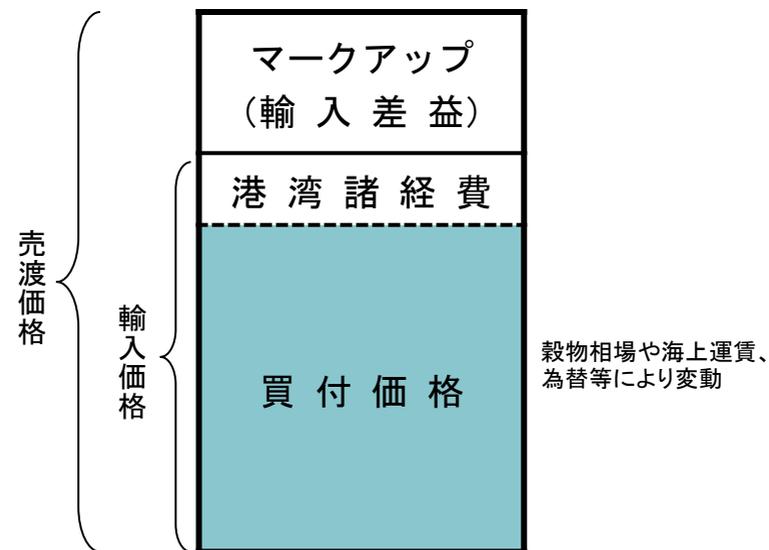
## 現行の輸入小麦の売渡制度

- 平成19年4月からの輸入小麦の政府売渡価格は、輸入価格（過去の一定期間における輸入価格の平均値）に、マークアップ（政府管理経費及び国内産小麦の生産振興対策に充当）を上乗せした価格。
- 国際相場の変動の影響を緩和するため、価格改定は年2回とするとともに、過去6か月間の平均買付価格をベースに算定。

### ○ 政府売渡価格改定ルール

項目	基本的なルール
年間価格改定回数	現在年2回（2月、8月に決定・公表）
買付価格算定期	直近6か月間 〔 今回の改定に当たっては、平成25年9月から平成26年2月までの政府輸入価格を基に算定。 〕

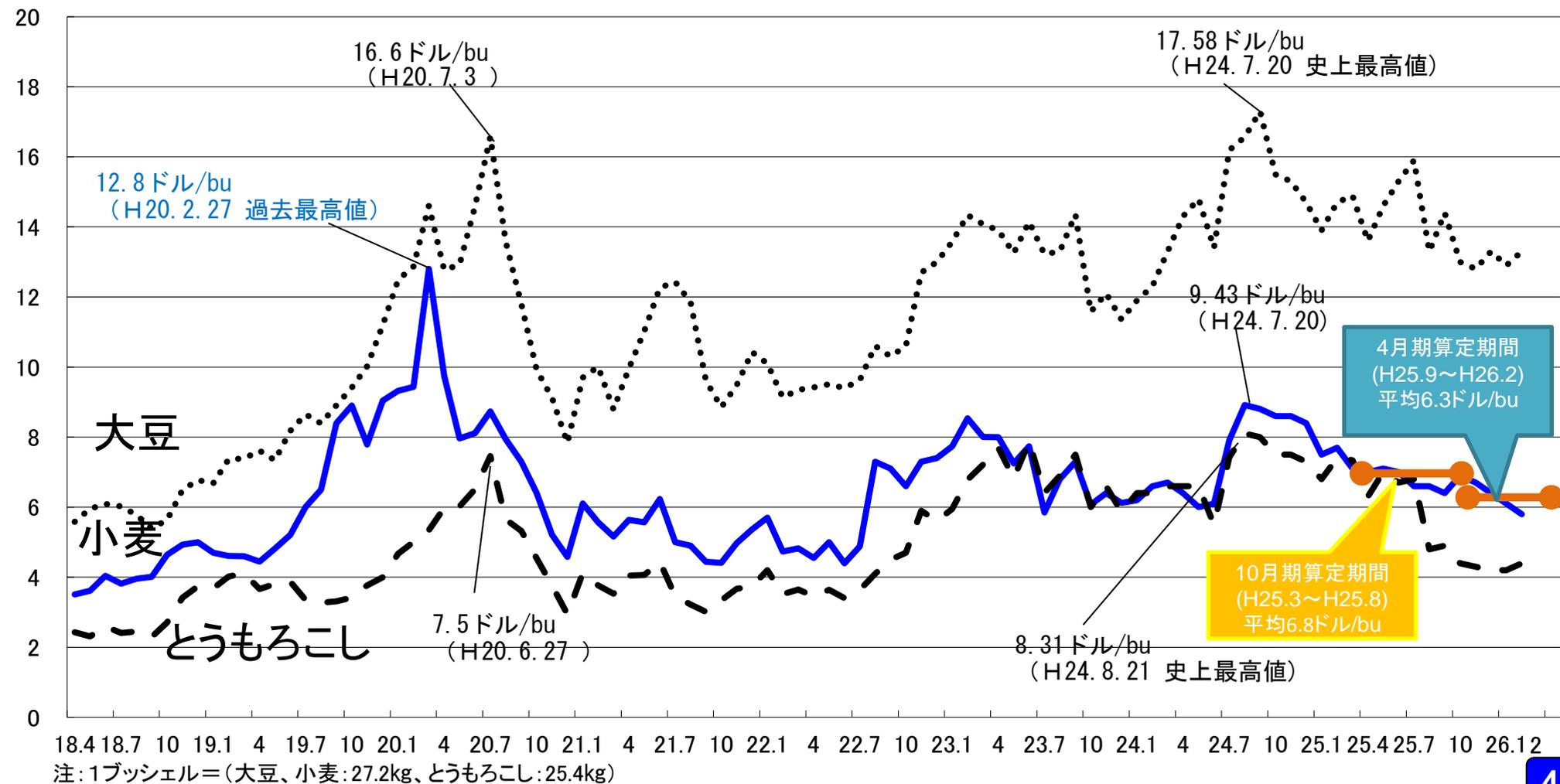
### ○ 政府売渡価格の構成



# 穀物の国際価格(シカゴ相場)の推移(平成18年4月～26年2月)

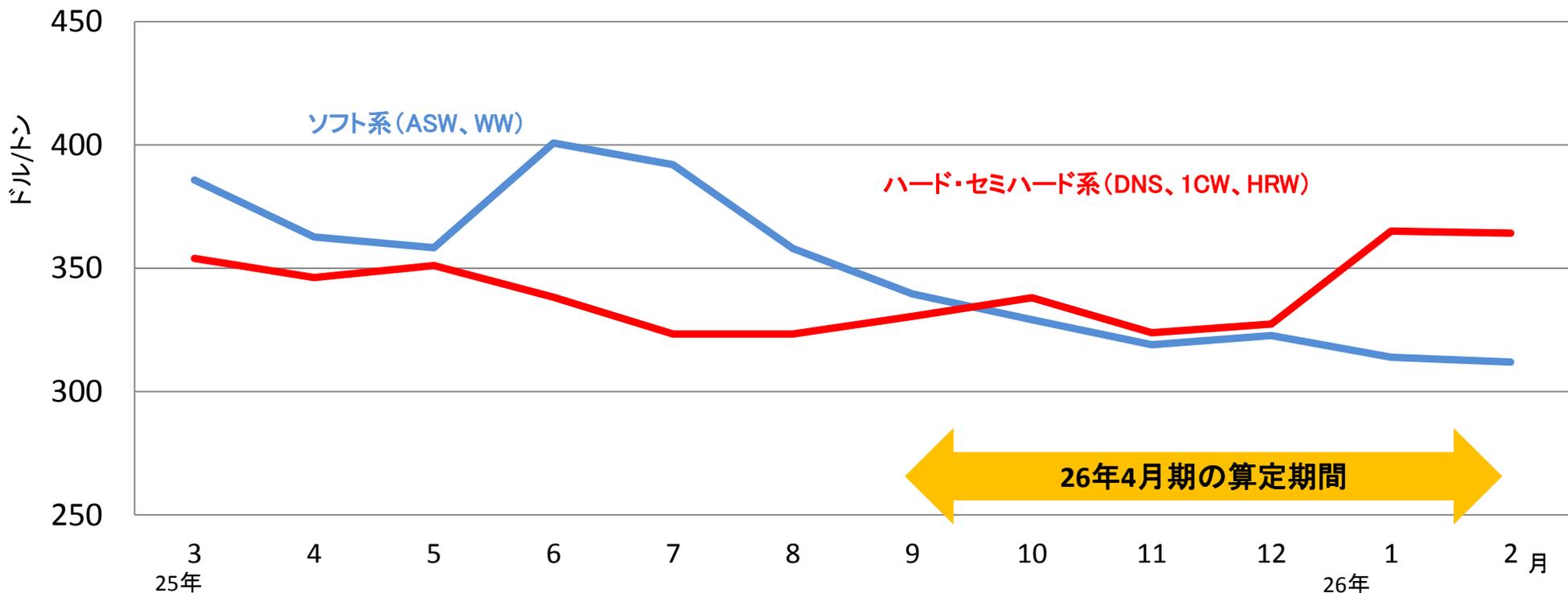
- シカゴ商品取引所における小麦相場は、米国の高温・乾燥による作柄悪化懸念を背景に上昇した大豆、とうもろこしに連動し、平成24年7月に4年ぶりの高値を記録。
- 平成25年に入ってから、米国産小麦の収穫の進展により、値を下げており、最近では、世界的に豊富な供給量見込みなどを受け、軟調に推移。

ドル/ブッシェル



# 小麦の日本向け輸出価格の推移

- ソフト系小麦の輸出価格は、豪州の豊作見通しにより A SW の価格が低下していること等から、軟調に推移。
- 一方、ハード・セミハード系小麦の輸出価格は、カナダにおいて小麦を含む穀物全般が大豊作となる中、石炭等の資源の輸送需要が増大し、穀物の鉄道輸送が著しく停滞したこと等から、年明け以降、特に 1 CW の価格が上昇。



# 北米における鉄道輸送の状況

- 2013/14年産は米国、カナダにおいて穀物が豊作となり、中でもカナダの小麦については生産量が前年より1千万トン増加。
- 一方、2013年は、北米において石炭等の資源の鉄道輸送量が増加（カナダ西部の場合、2013年の鉄道輸送量は2009年に比べ、石炭については143%、原油については364%にそれぞれ増加）。  
鉄道貨車数に制限がある中、小麦については内陸産地から西岸輸出港までの鉄道輸送が停滞していること等が輸出価格上昇の要因に結びついているところ。

## ○ カナダの主要農産物の生産量

(単位：万トン)

	2012/13	2013/14	対前年比
小麦	2,721	3,753	+1,032
菜種	1,387	1,796	+409
コーン	1,306	1,419	+113
大麦	801	1,024	+222
その他	1,278	1,482	+204
計	7,492	9,474	+1,981

出典：カナダ統計局

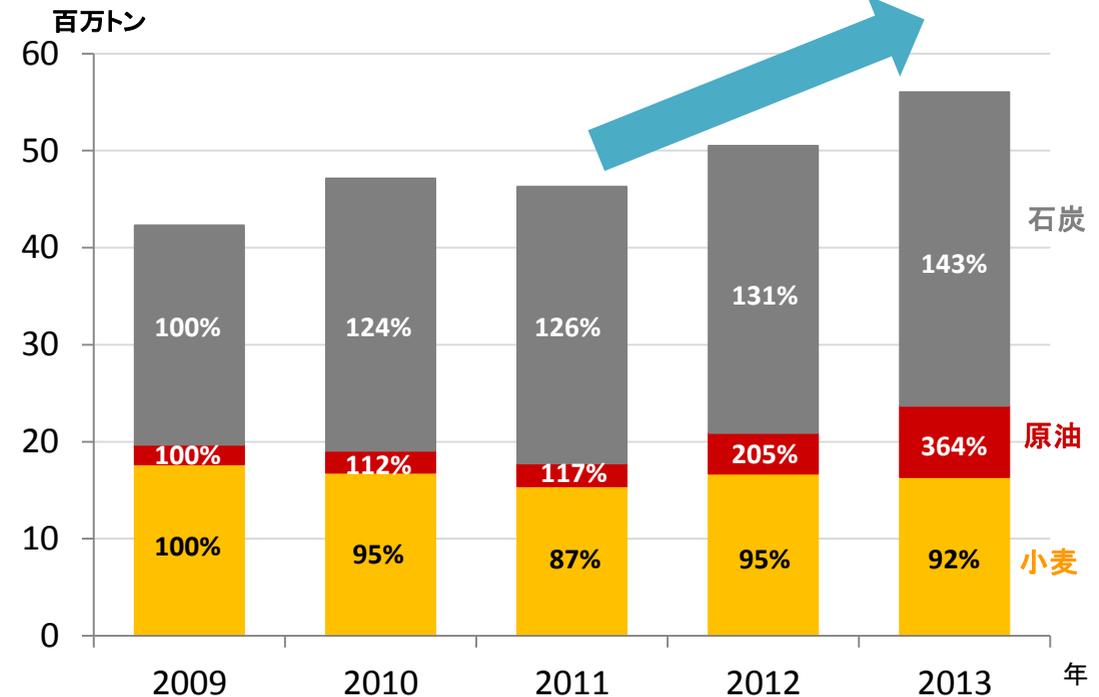
## ○ 米国の主要農産物の生産量

(単位：万トン)

	2012/13	2013/14	対前年比
小麦	6,167	5,796	▲371
コーン	27,383	35,372	+7,988
その他	1,851	2,177	+326
計	35,401	43,344	+7,943

出典：米国農務省

## ○ カナダ西部における鉄道輸送量の推移



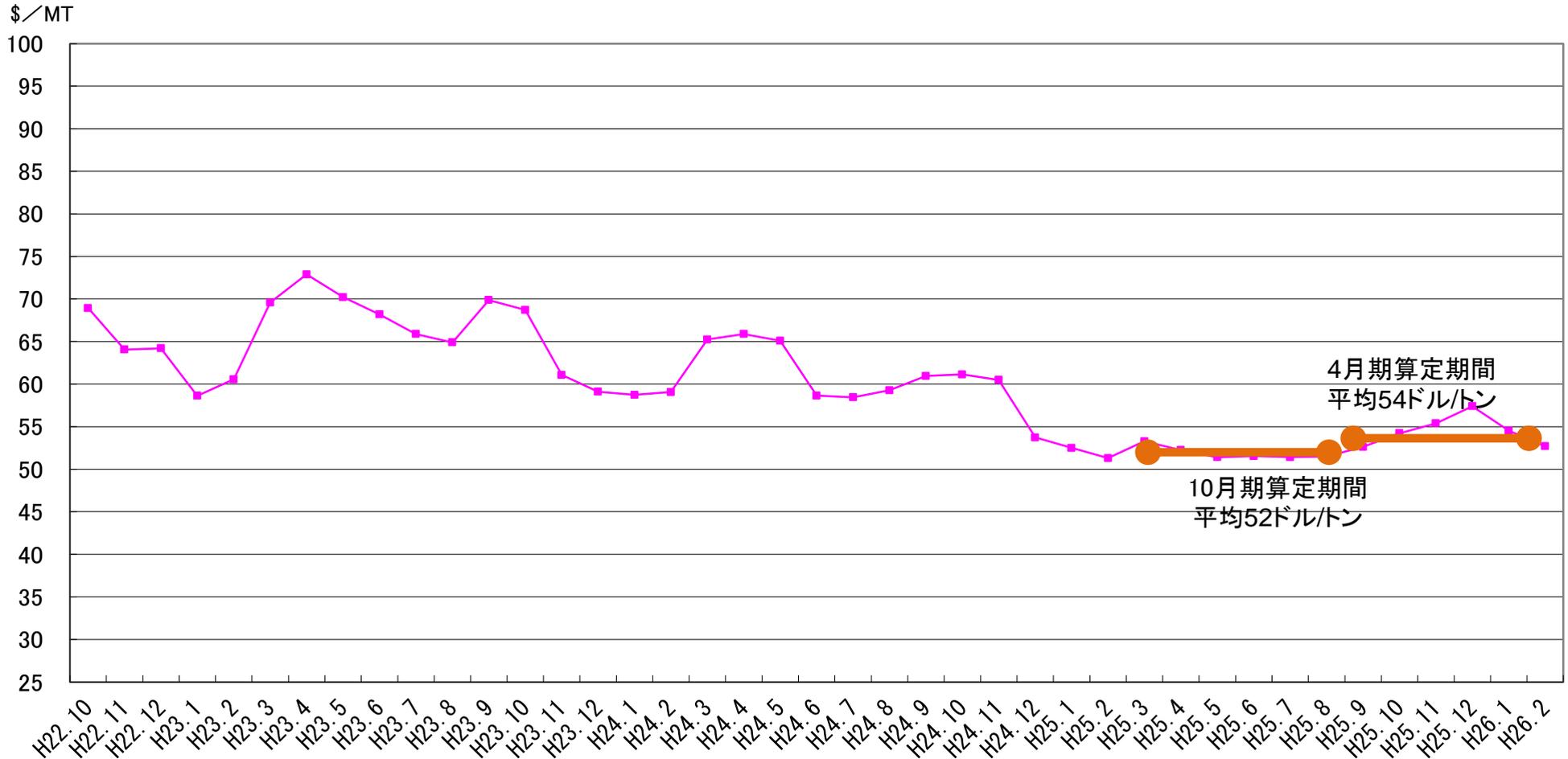
出典：カナダ統計局

注：1. 2013年の直近データと比較するため、各年とも1～10月分の間における数量。

2. グラフ内の%は、2009年を100%とした場合の数値。

# 海上運賃の動向

○ 海上運賃は、平成24年10月以降、中国の景気が減速したため、中国向け輸出貨物の減少に伴う船舶需給の緩和等により下落したが、平成25年9月以降、北米産穀物の輸送需要の増加等により船舶需給が引き締まり、堅調に推移。



注: 2万トン級のフレート (WORLD MARITIME ANALYSISより)

# 為替の動向

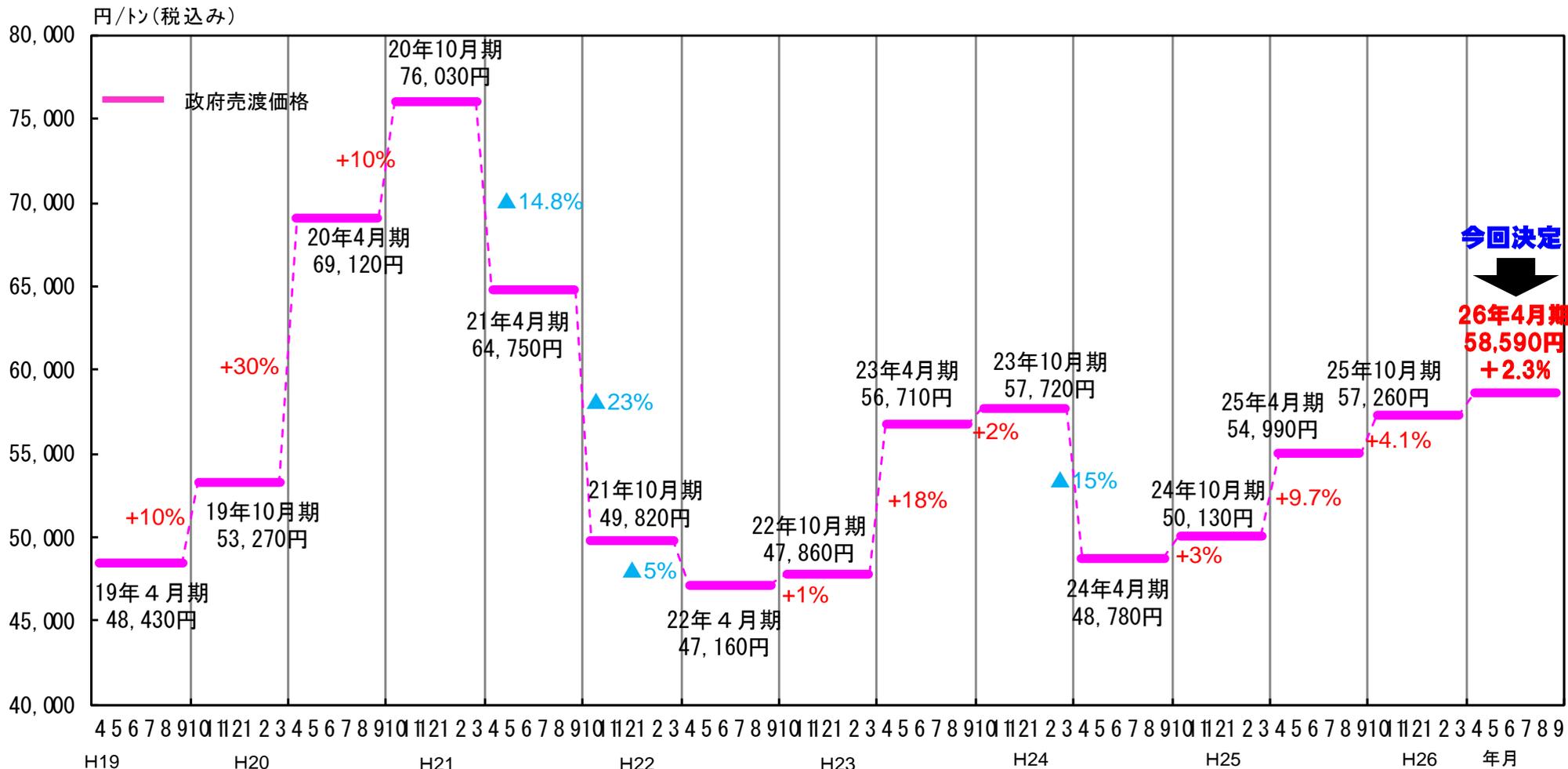
○ 為替は、近年、円高が続いていたが、平成24年末以降は円安基調に転じ、最近では100円／ドルを超える水準で推移。



注：対米ドル 直物為替TTS (Telegraphic Transfer Selling Rate : 対顧客電信売)

# 輸入小麦の政府売渡価格の推移

- 輸入小麦の政府売渡価格は、穀物の国際相場や、海上運賃、為替等の動向を反映した買付価格により変動。
- 平成26年4月期（平成26年4月～10月）における輸入小麦の政府売渡価格については、平成25年9月から平成26年2月の買付価格に基づき算定。



注：平成25年10月期以前は、消費税5%込みの価格であり、平成26年4月期は、消費税8%込みの価格である。

○ パンや麺等の小麦粉関連製品の小売価格に占める原料小麦代金の割合はそれほど大きくなく、今回の政府売渡価格の改定が消費生活に与える影響は極めて限定的。

○ 今回（26年4月期）の小麦の政府売渡価格の改定が消費者物価指数に与える影響

+0.001% 程度

※ 小麦粉製品に占める小麦の価格のみに着目し、当該価格が全て今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提として試算。

○ 製粉企業の小麦粉価格の改定時期

原料小麦の政府売渡価格の改定に伴い、製粉企業が小麦粉価格を改定するのは、各事業者の在庫状況にもよるが、過去の例では約3か月後（6月下旬以降）。

ただし、4月1日から、消費税率の改定に伴う小麦粉価格の改定が行われる見込み。

○ 小麦粉製品への影響額（試算）

	(※1 小売価格)	(※2 改定による影響額(試算))
うどん(外食)	590円/1杯	→ ▲0.1円/1杯
食パン(小売)	167円/1斤	→ 0.6円/1斤
小麦粉(家庭用薄力粉)	226円/1kg	→ ▲1.3円/1kg

※1：小売価格は、総務省「小売物価統計調査」（東京都区部、26年1月）による。

※2：小麦粉製品ごとの原料小麦代金の割合、原料小麦の価格改定率により試算。

※3：食パン1斤は400gとして試算。

※4：小麦粉製品に占める小麦の価格のみに着目し、当該価格が全て今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提として試算。

(参考)

小麦関連製品の小売価格に占める原料小麦代金の割合  
(消費者物価指数における消費支出額割合の大きいもの)

① 中華そば(外食)	1%
② 食パン	7%
③ 即席中華麺	2%
④ ゆでうどん	9%
⑤ 小麦粉(家庭用薄力粉)	30%

## (参考)輸入小麦及び小麦製品の安定供給確保のための取組

- 農林水産省としては、消費者等に対し、輸入小麦の政府売渡価格改定の背景等に関する正確な情報提供に努めるとともに、農林水産省内の専門の相談窓口を活用し、各種相談を受け。
- また、農林水産省の出先機関が、食パンや小麦粉等小麦製品の店頭価格の動向把握に努めているところ。

### ○ 相談窓口の設置

輸入小麦の安定供給に資するよう、農林水産省内に相談窓口を設置。

#### <設置場所>

農林水産省 生産局 農産部 貿易業務課内

#### <設置日>

平成20年10月(25年2月にメールでの相談に対する専用のインターネット窓口を整備)

#### <相談内容>

- ① 国際相場の動向や価格改定理由の説明、関連資料の提供
- ② 小麦関連製品に係る小売価格に関する相談
- ③ 原料小麦の安定供給の確保に関する相談 等

### ○ 小麦製品の店頭価格把握

農林水産省の出先機関が、小麦製品の店頭価格の動向把握に努める。

#### <主体>

農林水産省職員

#### <対象店舗>

全国470店舗

#### <把握内容>

大手メーカーが全国規模で販売展開する銘柄の食パン、即席カップ麺、ゆでうどん及び家庭用小麦粉の店頭価格

相談  
窓口

<https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/ae3c.html>